

Ⅲ. 森林愛護教育への協力

1. なぜ森林愛護教育へ積極的に取り組むか

①
高がほら
高原地域は林野率
96%の山村で、人々
の生活と森林とは
深い結びつきが
ある。

②
すばれた自然景観
に恵まれた北アル
プスがあり、この地
域を訪れる人が
多い。

この地域の自然、あるいは
森林を守り育ててゆくのは
この地域に住んでいる
人々です。

森林愛護教育へ
の協力が必須

郷土の次代をになう子どもたちに

1. 緑と人間とのかかわりを正しく理解させる。
2. 自然愛護の精神と、情操豊かな人間性をやしなう。
3. 郷土愛をつちかう。

ことが必要である。

燕 務 洋 子

①
上室村議会は
「北アルプスの自然を守る宣言」
を提唱した。

②
子どもたちを植樹祭や、森林教室
に招待したところ、郷土の
緑の大切さを再認識し、
学校や父兄からも好評であった。

③
林業経営者懇談会において、
みどりの少年団の
指導依頼があった。

④
地元の人たちに、広く
国有林の仕事を知って
もらうことが
必要である。

2. 実施した事例

実施した事例

林業経営
と深い
かかわり
のある
地域

① 4月、上室村大雨見国有林で、上室本郷小6年生(40名)・先生(4名)を植樹祭に招待し、タテヤマスキ植栽や山草展見学、葉箱の贈呈、森林教室を行なった。

② 9月、上室村下佐谷国有林で、上室みどりの少年団員(10名)・先生(1名)・林業改良クラブ(3名)を伐採・集運材・玉切装置の現場見学に案内し、森林教室を行なった。

③ 10月、神岡町ウレ山国有林で、神岡下之本・森茂両中学生(21名)先生(4名)を案内し、タテヤマスキ植栽や葉箱の贈呈、森林教室を行なった。

④ 10月、上室村大雨見国有林に天皇陛下御在位五十周年記念部分林を設定した。
11月、みどりの少年団員(10名)・先生(1名)が部分林にタカラスギを植栽した。署からみどりの少年団の活動に対して表彰状を授与した。

⑤ 7月、上室村穂高国有林西穂山麓今石平で、上室栲尾小6年生(26名)先生(2名)を案内し、植生分布など自然観察と北アルプス青空教室を行なった。

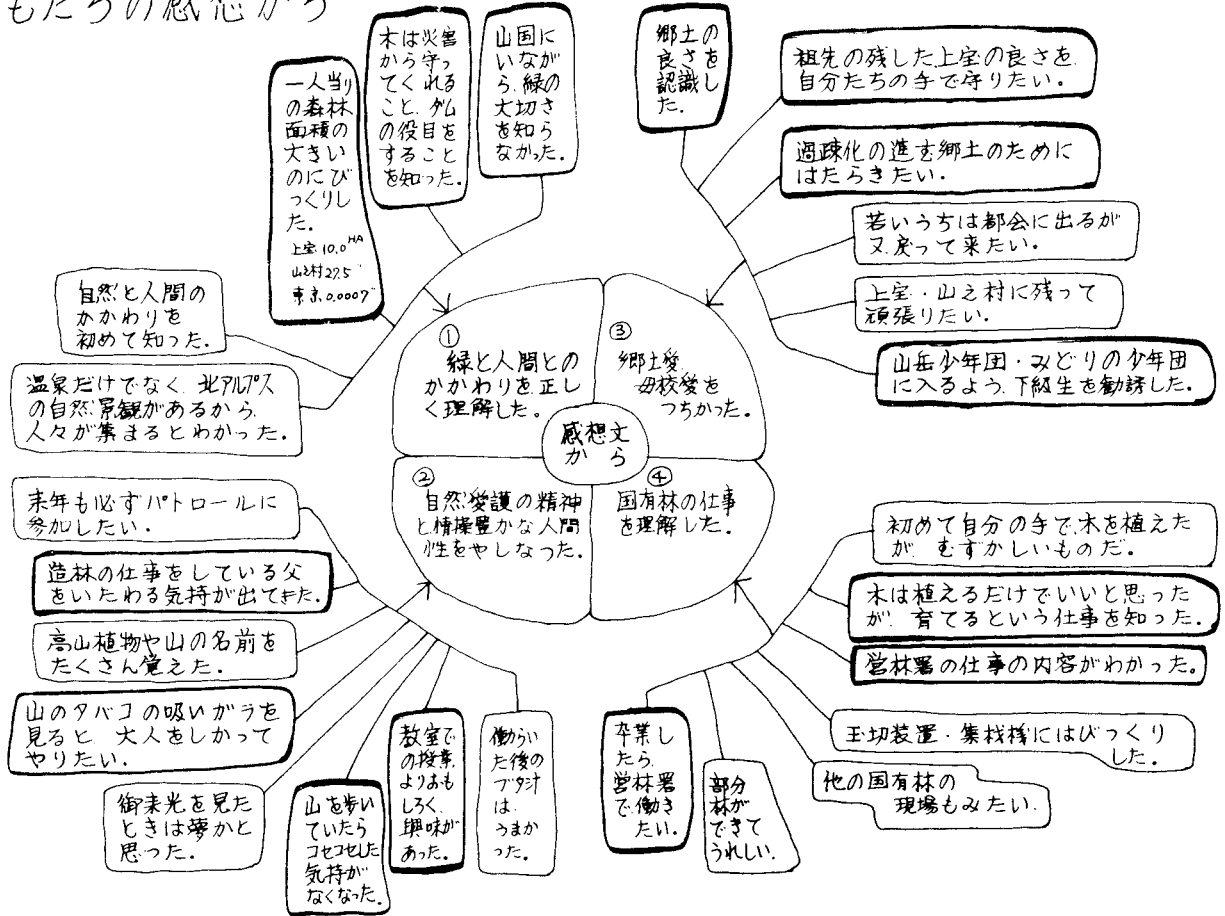
⑥ 8月、上室村穂高国有林・北アルプス双大岳～槍ヶ岳で、上室村栲尾山岳少年団員(3名)と夏山パトロールを行ない、高山植物保護・安全登山・ゴミの持ち帰りなど指導した。
同行者は営林署2名・岐阜県警2名・北穂山岳救助隊2名

・森林の働き
・森林と郷土との
つながり
を理解させた。

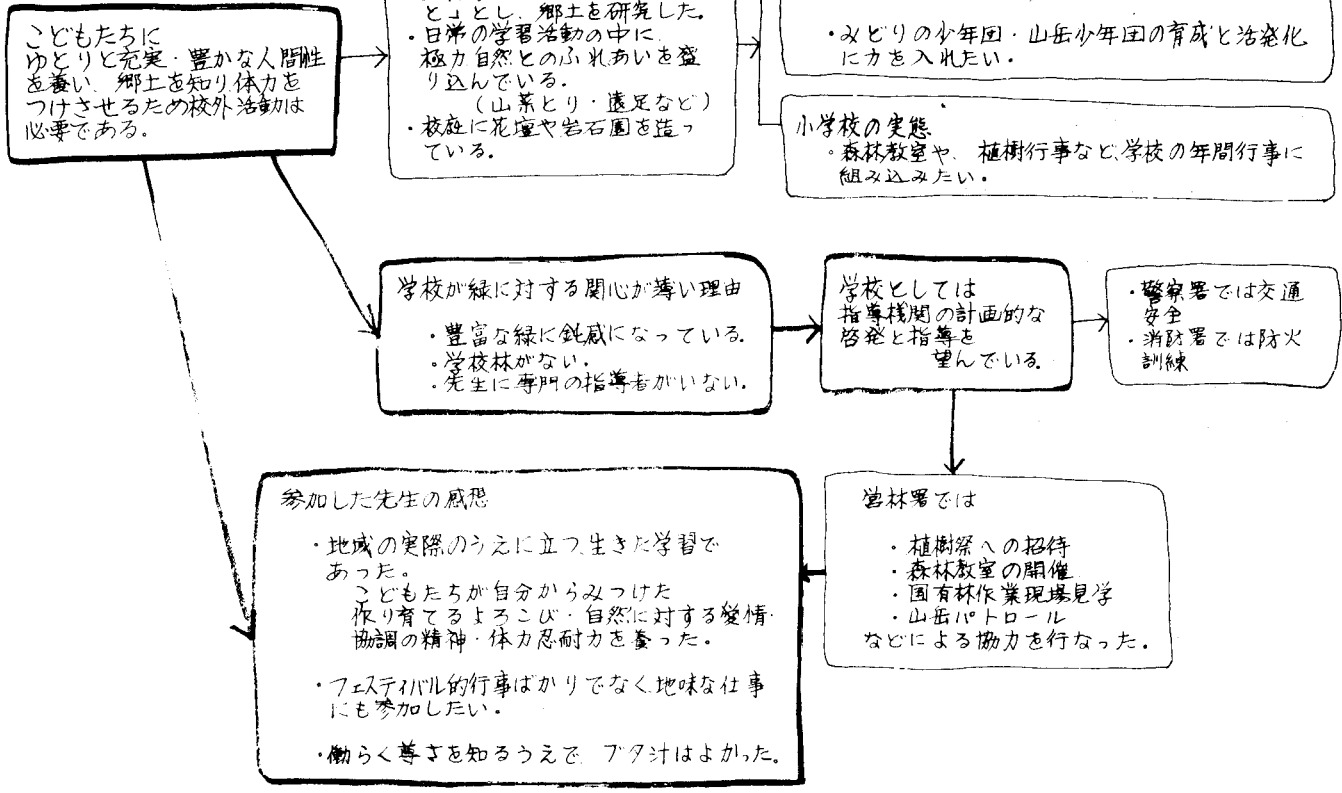
・森林の働き
・森林・北アルプス
と郷土とのかかわり
・高山植物
・北アルプスのあいたち
を理解させた。

すばらしい
山岳景観
と温泉の
ある地域

子どもたちの感想から



4. 教師の立場からの感想



子どもたちにゆとりと充実・豊かな人間性を養い、郷土を知り体力をつけさせるため校外活動は必要である。

学校が現在行なっていること

- ・文化祭のテーマを「ふるさと」とし、郷土を研究した。
- ・日常の学習活動の中に、極力自然とのふれあいを盛り込んでいる。(山茶花・遠足など)
- ・校庭に花壇や岩石園を造っている。

昭和55・56年に、新学習指導要領が完全実施され、「ゆとりのある教育」に移行される。

中学校の実態

- ・進学のための学習に追われ、校外活動の時間がないので、サークル活動に期待したい。
- ・みどりの少年団・山岳少年団の育成と活発化に力を入れたい。

小学校の実態

- ・森林教室や、植樹行事など、学校の年間行事に組み込みたい。

学校が緑に対する関心が薄い理由

- ・豊富な緑に鈍感になっている。
- ・学校林がない。
- ・先生に専門の指導者がいない。

学校としては指導機関の計画的な啓発と指導を望んでいる。

- ・警察署では交通安全
- ・消防署では防火訓練

参加した先生の感想

- ・地域の実際のうえに立つ生きた学習であった。子どもたちが自分からみつけた、作り育てるよるこび・自然に対する愛情・協調の精神・体力忍耐力を養った。
- ・フェスティバル的行事ばかりでなく、地味な仕事にも参加したい。
- ・働らく尊さを知るうえで、アタ汁はよかった。

造林署では

- ・植樹祭への招待
- ・森林教室の開催
- ・国有林作業現場見学
- ・山岳パトロール
- などによる協力を行なった。

5. 今後どのように取り組むか

